公立高校合格コース（中１・２）

学力確認　単元別強化　定期試験対策　過去問対策

◎　年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	トライ模試		トライ模試		トライ模試		トライ模試		トライ模試
トライ対策スケジュール	**トライの夏特訓** ・現状学力の確認 ⇒5教科の単元別詳細まで ・学習習慣の改善 ⇒学習の意識・習慣改革 ・苦手単元 ⇒夏休み中に苦手は克服		**定期考査対策** 公立受験では、内申点も非常に重要です。１・２年生のうちに定期考査の対策の取り方を身につけて頂きます。 勿論、受験へ向けた実力UPも考えた指導を行います。			**トライの冬特** 偏差値で、合格基準をクリアできるように、必要時間を頂き指導します。 **理科・社会科目対策** 冬休みには、普段やれていない理科・社会も復習します。		**今年度の総復習** 漏れなく復習ができるように、春休みも含めての計画立てを行い、指導を進めます。	
ポイント	6月に実施された期末テスト見直しを行い、間違いを理解します。苦手単元診断を行い、学習内容を組みます	夏特訓開始　前年度分の総復習を行います。トライ独自の学習法によるテキスト全見直しと苦手単元克服します。	実力アップのための応用力を身につけます。応用問題に挑戦し考え方、解き方を付けます。	中間テストで成績アップするために出題範囲を徹底的に繰り返し学習します。	期末テストで成績アップするために出題範囲を徹底的に繰り返し学習します。	普段はおろそかになっている、社会・理科科目を冬休みには強化します。	冬休みの特訓の成果が、休み明けの試験で出ていた筈です。さらに上を目指し、新たな目標立てを行います。	学年末考査の対策を行います。来年を見据え、対策も自分の力で出来るように指導致します。	今後の取り組みのポイント等を整理します。必要あれば、ご訪問しカリキュラムの見直しを行います。

◎　こういう生徒にお勧め！

・公立高校を志望する全ての生徒
・受験勉強の進め方に不安がある生徒
・現状の偏差値が分からない生徒

◎　対象学年

中学１・２年生

◎　指導の進め方

志望校別に、
①ご本人の現状学力
②志望校の必要偏差値・得点
①②を分析の上、合格の為に必要な指導時間を割り出し、具体的な目標を持って指導を行います。

◎公立高校合格コース　　入試攻略ポイント

国語	大問２が古文から漢文の書き下し文に変わったほかは、大問構成に変化はない。大問１は説明的文章、大問３は随筆、大問４は作文という出題。大問１の説明的文章では、本文の内容を示した図を使った問題が例年出されている。 大問４の作文は、標語を読んで書く作文が出た。 レベル的には高くはない。対策としては、古典分野の知識をしっかり付けておくこと。現代文では、演習を重ね、文章を忠実に捉える事が出来るようになっておきたい。
理科	大問は物化生地からそれぞれ２問ずつの出題で、実験観察に関する問題が多く出ている。大問７では、全身を映すために必要な鏡の大きさを調べる実験の問題が出た。また作図問題も出ていて、特に大問２の生物では遺伝子の伝わり方を示す図を完成させる問題が出ていた。 今まで実際にやってきた実験の手順から、結果までを完全に復習しておきたい。また、きちんとした知識を付けておけば高得点もできる内容なので、理科が得意という方は9割以上の得点を期待できる。
数学	大問１は小問集合。大問２は連立方程式の文章題。大問３は連続する２つの奇数に関する式の証明問題。大問４は関数の問題。大問５は平面図形、大問６は空間図形の問題。一部の学校で追加問題として、確率の問題と、証明問題を含む平面図形と回転体の問題が出題された。 小問集合でのケアレスミスは致命的な失点となる。レベル的には易しい問題・難しい問題がはっきりしているので、実力がそのまま出やすい。いかにミスなく、正答率の低いを拾えるか？がポイント。
社会	大問１・２は歴史、大問３・４は地理、大問５・６は公民が出題された。３分野で文章記述問題が出題されているので、文章を簡潔にまとめる力をつけておく必要がある。地理では複数の資料を読み取る問題が出題されているので、正確に資料を読み取る力も必要。作図問題も出題されている。 社会が好きで、勉強時間を確保できている方にとっては、とても易しい問題。繰り返しの問題演習で、１問１答形式の問題でも完璧に覚えていけば、それだけでもかなりの点は取れる。かけた時間の分だけ得点は伸びる。
英語	基本的な構成は例年どおり。大問１はリスニング。大問２は対話文に適切な文を補充する文法問題。大問３は対話文読解。大問４は長文読解で、下線部の内容を日本語で説明する問題などが出た。大問５は、英語の質問に対して自分の考えを２５語以上で書く英作文問題。全体的には基本問題だが、大問３・大問４・大問５で差が出るような構成。各教科で言える事だが、いかにケアレスミスなく、正答率の低い問題で点を拾っていけるかが鍵となる。上位校を目指す方は細かい部分までの復習・ミスをしない正確さが必要。